

# 家畜改良センター茨城牧場 虚弱子豚の取扱い マニュアル

第2版

令和3年6月

## 1 分娩時における虚弱子豚の取扱い

### (1) 生時虚弱、未熟子豚

羊膜が顔面を覆っているもの、さい帯が早く切れたり、体に巻き付いたりしている子豚については、付着物の除去や口腔内・鼻孔内の異物の排出を行う。

体温低下による衰弱の場合、40℃程度のぬるま湯に入れ体を温めた後、乾いたタオルで体をぬぐい、乾燥剤を用いてできるだけ早く子豚を乾かす。

乳付けは、子豚の口に乳頭を入れ、乳を搾り出して乳の味を教え、自ら飲むように仕向ける（自力で吸う力がない場合、腹腔内補液、人工哺乳又は強制哺乳※を行う）。

虚弱子豚や未熟子豚には、人工哺乳又は強制哺乳により分娩当日用の代用乳を与える。また、豚房内に代用乳を設置し、子豚の鼻を浸して哺乳を促す。

※ 「2 強制哺乳の方法」参照。

### (2) 仮死子豚

分娩直後、子豚が動かないときや口・鼻が膜に覆われているときは、乾いた布で口の周りをよく拭き、心臓に鼓動がある場合、以下のいずれかの方法により人工呼吸を行う。



- ・ 後肢をにぎり、逆さに吊り上げ、片手で体をたたき刺激を与えるか、揺さぶる。
- ・ 子豚の鼻と口に介助者の口を当て、息を吸ったり吹いたりして呼吸させる。
- ・ 腹を上にして頭頸部と後肢を左右の手で持ち、屈伸運動をして、呼吸を促す。

なお、子豚が鳴き声を上げ呼吸を開始し、動き出して元気になった場合、一般の子豚介助の方法によるが、動きが十分でないときは、(1) 生時虚弱、未熟子豚に準じて行う。

## 2 強制哺乳の方法

人工哺乳（ほ乳瓶での哺乳）ができない場合、以下のとおりカテーテルを用いて強制ほ乳（10～20ml）を行う。

- （1）シリンジにミルクを吸い、カテーテルを付ける。
- （2）カテーテル先端までエア抜きをする。
- （3）子豚の頭を持ち、のどにカテーテルを入れる。
- （4）しばらくカテーテルを入れ、胃に入ったところでシリンジを一度引き、空気が入ってこないことを確認する。空気が入った場合、カテーテルが気管に入っているので、一度抜き、もう一度入れ直す（そのままミルクを注入すると窒息死する。）。



また、状況に応じ、栄養剤の注射やブドウ糖液（リンゲル液）の腹腔内注射（1～3ml）を行う。なお、腹腔内への注射は40℃程度に温めて投与する。

- （5）少しずつミルクを注入する。

## 3 腹腔内補液の方法

- （1）シリンジに生理食塩水と栄養補給剤を9：1の割合で注入する。なお、腹腔内補液の最大量は20mlとする。
- （2）シリンジ内にお湯が混入しないよう、針を装着したシリンジをチャック袋へ入れたまま、これをお湯へ入れ、40℃程度（わずかに熱く感じる程度）に温める。

- (3) 当該豚の腰骨から頭側へ向かって 45 度の角度で引いた延長線上で、腹底から 1cm の高さの部分へ針を刺して薬剤を注入する。



- (4) 薬剤を注入する際、針を刺した後にシリンジの内筒を軽く引き、血が入らないことを確認してから注入し、薬剤が半分ほど入ったところで再度内筒を引き、血が入らなければ全量注入する。
- (5) 血が出た場合、腹腔内補液を中止する、又は反対側の腹へ腹腔内補液を行う。

(以上)